

千葉県無形民俗文化財指定50周年記念

## 特集 白柵粉屋おどり

町内には、地域の歴史や文化に培われた民俗芸能があります。それは地域住民により受け継がれ地域固有の文化として発展してきました。今月号は千葉県無形民俗文化財に指定され50周年を迎え、11月24日には白柵粉屋おどり芸能大会を開催する「白柵粉屋おどり」について特集します。



### 節目の年

白柵粉屋おどりは昭和43年4月9日に「千葉県無形民俗文化財」の指定を受け、今年で50周年を迎えました。千葉県無形民俗文化財とは衣食住、生業、信仰などに関する風俗習慣、民俗芸能などが指定されており、県内で57の文化財があります。

### 白柵粉屋おどりの始まり

白柵粉屋おどりがどのようなように伝えられてきたか知っていますか？これは、白柵地区にあった粉屋の、美しくも薄命だった娘を慕う歌と踊りです。天保年間（1830年～1843年）に江戸で流行し、明治・大正では芸事の習い始めに用いられたといわれています。

中村檀林（現在の日本寺）を起点として、旧多古町街道という二里塚にあたる「白柵村」に「白柵粉屋」（木内家）はありました。ここでは街道を行きかう人たちに湯茶の接待をしていたそうです。ある僧侶は修行のため、中村檀林や飯高檀林（現在の飯高寺）に向かっていた途中、白柵粉屋に立ち寄り

ました。その娘がとても美しく、その僧侶は婿になりたいと思いました。しかし、修行を終え再び白柵粉屋へ足を運ぶとその娘は病気のため亡くなっていました。その娘の名は「久子」といい、僧侶は久子の墓参りに行きます。するとその墓石には「容顔院妙歌日詠」と刻まれていました。これはとても美しく綺麗な声で歌を歌っていたという意味。まさに久子にぴったりな戒名でした。そして、その僧侶が久子を思い作った唄が現在の「白柵粉屋おどり」として受け継がれています。



久子の墓（白柵地区）

### 各地へ伝わる唄

白柵粉屋おどりは、飯高檀林で学んだ多くの僧侶によって全国各地に広がったといわれており、歌詞の始めにでてくる「おいとこ」にちなみ「おいとこ節」とも呼ばれています。「おいとこ」という言葉は関東地方の言



### ちょっと解説

踊り手は女で男役と女役に分  
かれます。歌に合わせて踊りながら  
「エンヤーホイ」と威勢良くはや  
し、太鼓、四つ竹、笛で演奏され  
ています。

白柵粉屋おどりを保存、そし  
て継承していくために白柵地区  
の有志の皆さんによる「白柵粉  
屋おどり保存会」が設立されて  
います。会員は全部で16名、毎  
月公民館で練習を行っています  
。また、11月24日に行われる  
「白柵粉屋おどり芸能大会」に  
ついての企画・運営に関する打  
合せを昨年度から始め、本番当  
日に向けて着々と準備を進めて  
います。

### 白柵粉屋おどりを 保存・継承する保存会

葉ではなく、佐渡地方の言葉で  
す。そのため佐渡辺り出身の、  
檀林で学んでいた若い僧侶が原  
作者かも知れないという説もあ  
ります。また、一方で「飴屋節」  
と呼ばれます。これは飴を売り  
歩く人々が子どもたちを集める  
ためにこの唄を歌い歩いたから  
といわれています。  
「おいとこ節」は、岩手県や  
宮城県の民謡として伝わり、「白  
柵粉屋」は関東各地の「お洒落  
踊り」「万作踊り」「飴屋踊り」  
などの郷土芸能の演目の一つに  
なっており、県外へも広がり  
を見せています。



町民体育祭での児童による白柵粉屋おどり

白柵粉屋おどり保存会では  
はにわ祭や芸能発表会の他に  
も、近隣市町で開催される芸  
能大会や、白柵粉屋とゆかり  
のある団体の大会などにも参  
加をしています。  
その他にも、芝山小学校の  
児童に踊りを教え、児童は毎  
年、町民体育祭で白柵粉屋お  
どりを披露しています。この  
様に、伝統の文化財を芝山町  
に残し、また全国に広める活  
動に尽力しています。

### 白柵粉屋おどり保存会 その他にも こんな活動を しています！